



ALUMNI
NEWS
Vol.9 2

2009-2010 年度活動報告

ニューズレター編集委員会 顧問 菅原秀二 副会長 鈴木抄織 幹事長 菅原桂子 幹事 西真木子

【主な活動】

- 2009/7/4 「07-08 国際親善奨学生壮行会」、KKR 札幌ホテル (学友3 名出席)
- 2009/9/12 「学友委員会・学友会合同委員会」、札幌第一ホテル(委員会3 名、学友4 名出席)
- 2009/10/17 「地区大会(滝川文化センター)」、学友会ブース開設 (学友2 名参加)
- 2010/2/20 「学友会新年会」(全15 名出席)
- 2010/3/6 「10-11 年度国際親善奨学生オリエンテーション」、NTT 北海道セミナーセンター (学友4 名参加)
- 2010/4/17 「学友委員会・学友会合同委員会」、札幌第一ホテル (学友2 名出席)
- 2010/4/29 「GSE スウェーデン派遣チーム壮行会」、札幌第一ホテル(学友5 名参加)
- 2010/5/15 「学友会役員会」、札幌学院大学社会連携センター (学友8 名)
- 2010/6/5 「学友委員会・学友会合同委員会」、札幌第一ホテル(委員会3 名、学友4 名出席)
- 2010/6/12 「第6 回帰国学友報告会・学友会総会」、札幌第一ホテル(全57 名出席)

【主な学友卓話】

- 2009/11/4 「栗沢RC」 梶川裕史
- 2009/11/5 「苫小牧東RC」 橋口とも子
- 2009/11/10 「江別西RC」 森田茂
- 2009/11/12 「滝川RC」 梶川裕史
- 2009/11/20 「小樽南RC」 白畑博信
- 2009/11/24 「白老RC」 菅原桂子

『卓話報告』①

1990GSE 森田 茂

11 月 10 日江別西 RC の例会にて、「家畜の福祉」と題し、最近の動物科学の研究成果をホンの少し紹介しながら、動物たちの心を理解した、動物に配慮した飼い方とは何かを、話させていただいた。

結局は、私たちが食し、私たちの命とするために飼っている動物たちも、生存中は、肉体的にも精神的にも健康でいたいという欲求が存在し、私たちも、不健康な家畜より健康な家畜から生産された食品を得たいと考えている。世の中には、「野生の状態が一番」的な動物解放への誤解があり、「草を食べさせれば、牛は Happy」という短絡的な伝説がまかり通ることになる。こうした内容を吟味しない風潮は、「最近の若者は…」的発想にも通じる。よく見て、話をして、一緒に活動すると「最近の若者は、ずいぶん立派だな」的考えになることが多い。

動物に「5 つの自由」と呼ばれる原則を保障した生活環境を提供する。そうした上で、動物が私たちに伝えようとしているサインを適確に読み取り、これを基に動物への対応を改善する(環境を再構築する)。こうした行為の繰り返しが、「動物に配慮した飼い方」である。乳牛を研究している私は、「ウシの生活は、人生の教訓であるかもしれないという話」を、話の中に、いつも織り込んでいる。私の早口で、丁寧な説明をしない動画と写真ばかりのスライドでの話でも、卓話後に受け取ったメールでは好評をいただいたようである。20 年前の GSE 派遣が私の人生に多くの出会いと、影響を与えている。今回の卓話の機会もそうだが、いつもロータリーには大感謝申し上げる。

『卓話報告』②

1999 奨学生 菅原桂子

11 月 24 日の財団月間に白老 RC にて卓話をさせていただきました。10 月の地区大会で学友会の展示をしていたことがきっかけとなり、今回の卓話となりました。例会の前にはアイヌ民族博物館の見学もさせていただき、北海道に生まれ育ちながらあまりよく知らなかったアイヌの文化についてふれることができ大変勉強になりました。例会では 2000 年に財団奨学生としてアメリカで過ごした 3 ヶ月間の話から、現在に至るまでの私の国際交流活動について話をさせていただきました。留学からあつという間に 10 年がたち、これまでにスポンサークラブの江別 RC をはじめ、2510 地区内の 12 クラブで卓話の機会をいただきました。全クラブでの卓話を目指してまだまだ頑張っていきたいと思います。



「財団奨学生オリエンテーションに参加して」

2000 奨学生 梶川裕史

学友会では留学前の新奨学生に行う支援の一環としてオリエンテーションに参加しています。国際ロータリー本部から送られてきたマニュアルだけでは解りづらい提出書類等の事務的な手続きのアドバイスをしたり、異国の地で充実した留学生活を送るポイントや、滞在期間中に起こり得るアクシデントやハプニングへの対処法とかを経験を交えてお伝えしています。

オリエンテーションの中でも一番充実しているのは総仕上げの合宿です。今年も 3 月に中央区の NTT セミナーセンターで行われました。日中のスケジュールを終え食事をした後、奨学金委員会の方々より差し入れをいただき、周りに迷惑を掛けないよう大部屋に集まって時間の許す限り語り合います。10-11 年度の奨学生は女性 4 名、男性 2 名で構成されていますが、リラックスした

中での会話は勉学に関することは勿論、政治・経済から文化・芸術や果ては国際恋愛に至るまで本音がバンバン飛び出します。私達学友メンバーや奨学金委員会の先生方からも昼間には語れなかったエピソードが披露されたりサプライズ満載です。

彼ら新奨学生が充実した留学生活を送り、帰国をしたらそれをまた次世代に伝えていく、学友会は正に世代間ロータリーの醍醐味を味わえるところです。毎回それぞれの年度でグループの特徴が異なるのも面白く、今年はどんな奨学生が現れるのかと新奨学生との交流を毎年とても楽しみにしています。

「GSE スウェーデンチームの研修支援について」 1993GSE 鈴木抄織

スウェーデンチームの皆さん、お帰りなさい！

先日の帰国報告会で帰国直後のメンバーの晴れやかな笑顔を見て、心底うれしくなりました。私がメンバーの皆さんに初めてお会いしたのが去年の春。彼らにとって最初の研修会ということで、期待と不安に包まれた緊張した面持ちでした。

学友会活動の大きな柱のひとつに、出発前の奨学生・GSE メンバーへのサポートがあります。経験者ならではの視点で適切なアドバイスを！と意気込んでいた私ですが、実際のところは・・・
(苦笑)

メンバーに決まって実際に出発するまでの1年にわたる研修でどんなことを勉強したり準備したりするのか、疑問や不安を少しでも解消してもらおうと、職業研修・例会でのスピーチ・ホームステイでの交流・パーティでの出し物・チームユニフォームや名刺のこと等々をお話させていただきました。

2月に準備最終段階ということで研修の成果を発表してくれる機会があり、みなさんそれぞれ、ユーモアを交え工夫をこらしたスピーチを自信たっぷりに披露してくれました。その夜の学友会新年会では、年代や国籍がさまざまな学友と楽しく交流することもできました。

さあ、これからは皆さんがサポートする側です。スウェーデンでの体験を日々の生活に活かすとともに、これから学友会として一緒に活動していきましょう！